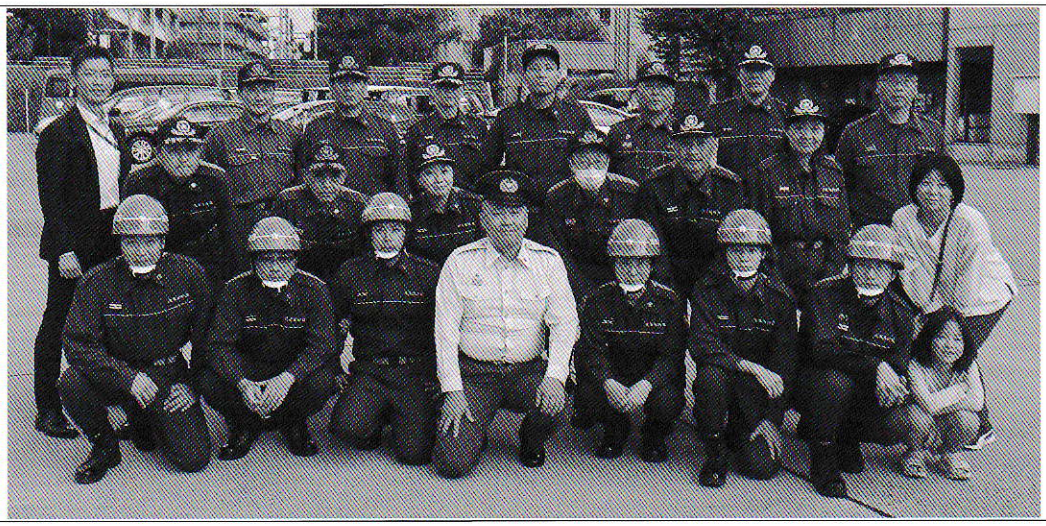
ASAKUSA
DAN
PRESS 119
第64号
2023年
12月1日発行
協力
浅草消防署
編集発行
浅草消防団
TEL
03-3847-0119

第五十一回東京都消防操法大会特集



わが町を
わが手で守る
消防団

東京の
消防団の
スローガン

都大会の指導総括として

団本部　桝田　賢二

団長より今大会の指導総括に指名され、二つ返事で引き受けましたが、八月の訓練開始の時点で訓練目標やその日程などを明確に出来なかった事が私の大きな反省点です。

長い訓練期間を経て大会当日、強化選手全員一致の努力が実り、結果は三消防団が同点で六位タイ、審査実施基準により規律減点の少ない隊が上位となり残念ながら七位で、六位入賞を逃がしました。この経験がこれから後輩の良き指導者となるでしょう。

訓練期間中、指導体制の役割分担をお願いした各副団長、各分団長、長期にわたりご支援を頂いた全団員、署隊のご協力、ご指導があって、無事に終了できた事に感謝いたします。

今回の経験から得られた教訓を今後のために資料として残したいと思います。力足らずを感じながら、解団式を迎えホッと安堵しています。

最後になりますが、ご協力、ご支援いただいた皆様、家族の皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

都大会を振り返って

第二分団　光岡　英明

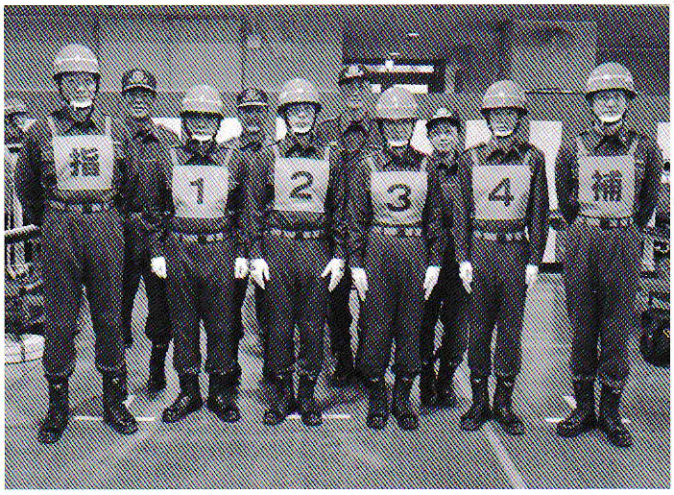
厳しい暑さの中、選手、支援隊、署の方々大変お疲れ様でした。

浅草として初の女性団員の参加で、日程、訓練方法等、見直す機会となり、今後は女性団員の活躍を、ますます広げていければという思いに至りました。

訓練では、なかなか調子が上がらず、心配もしましたが、大会では最高の操法で感動しました。

声出し応援、水平器など、新たに学んだ点もあり、今後も試行錯誤しながらより高みを目指していきたいと思います。

至らない点が多々ありましたが、改めて感謝申し上げます。



指揮者

第二分団　黒田　陣弥

この度は第五十一回東京都消防操法大会お疲れ様でした

選手、コーチの皆様、田島団長、指導総括の桝田副団長をはじめ消防団において支援をしていただいた方々、三浦署長をはじめサポートをしていただいた浅草消防署の皆様、二ヶ月間都大会の訓練ありがとうございました。

今回操法を始めたばかりの新人選手三名を含めての出場となりましたが、三位の最後の枠をめぐって三消防団が同点で並ぶ接戦となった結果、惜しくも七位になりましたが、優勝消防団との点数の開きも決して届かない差ではありませんでした。

これは一重に短期間に若手の消防団員が操法を通じて目覚ましく成長した結果だと思っています。

余談になりますが、大会終了後、九月三日に指導をいただいた馬場教官から、消防学校教官として三番員の木下団員が、今回の都大会において素晴らしい三番員でしたという旨のお言葉を頂きました。

これから他の若手の消防団員も次々と操法を経験して成長していければ都大会優勝も夢ではないと感じています。そのためにも今後ともご支援宜しくお願い致します。

最後に皆様本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

一番員

第二分団　伊藤　岳

支えてくれた方々、ありがとうございました。厳しい訓練は最高の経験でした。一つ一つの規律、動作に意味があり、仲間の命、家族の命、自分の命、地域の人の命を守る最も尊い活動だと認識しました。

大会当日、出来なかった事や失敗もありました。災害時なら、仲間を危険に晒すかもしれない、送水が一秒、二秒遅れたことにより、救えた命があったかもしれない、それらを肝に銘じてこれからも消防団活動を頑張りたいと思います。

二番員

第二分団　岡野　多加男

結果として、自分の追い求めていた入賞するという事を達成できませんでしたが、とても貴重な経験をさせて頂く事ができました。

黒田さん、岳さん、マッキーさん、梅ちゃんの五人で出場できて僕自身これ以上の事はないと思っています!!

選手の皆様ありがとうございました!!

八月の中旬頃から長い期間に渡ってサポートして下さった、すべての消防団員の方々、また指導して下さったコーチの方々、至らない面も多々あったかと思いますが、最後までありがとうございました。

三番員

第二分団　木下　真希子

この度、都操法大会の三番員を務めました二分団の木下です。

下水道局での訓練では沢山のご支援本当にありがとうございました。

都大会当日もご支援いただいた皆様、応援に来ていただいた皆様、本当にありがとうございました。皆様の声援とても心強かったです。

そして一緒に訓練に励んだ選手、指揮者の皆様大変お疲れ様でした。正選手を二分団チームでやれた事が大変心強かったです。

今回惜しくも七位という結果でしたが本当に入賞まであと一歩でした。ただ個人的には、事前に訓練に来ていただいた馬場教官から褒められた事と、多くの方に感動したと言われ、優勝した気分でした。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました！

四番員

第二分団　梅津　忠和

浅草消防団の方々、また浅草消防署の皆様、都操法大会本番も含めた二ヶ月間以上、応援や支援、アドバイスなど私たち選手に対して全面的なサポートをしてくださりありがとうございました。

都操法大会から一ヶ月以上が経った今、私はポンプの扱い方について誰よりも学ぶことができたと考えています。私が任された四番員はポンプを使い、いかに早く、安全に送水するかということが求められました。上記のポンプの扱いが、防災、減災に繋がっていければと考えます。訓練や実際の災害時でも、役に立つものであり、求められるものと考えています。その為、今回のポンプの操作を操法大会の時だけの知識にするのではなく、都操法で学んだことを地域などに還元し、地域全体が防災、減災に繋がっていければと考えます。

支援隊に参加して

第三分団　駒野　一男

皆様大変お疲れ様でした。

約三ヶ月に及び支援隊として参加致しました。

私達支援隊は八月の前半からスタートしましたが、久しぶりの大会支援の為、手際が思い出せず又、今夏の猛暑との戦いで苦労の連続でした。

その中でも選手共々我ら支援隊も思うように息が合わずストレスが溜る日々でした。

一つの例として『定位に着け』の号令に対しても選手各人バラバラで、このままではこの先どうなるのかと心配しておりましたが、その選手たちも秋風が吹き始めた頃の九月三日に消防学校の教官にお越し頂き、ご指導を受けて以降、目に見えてスムーズで的確な行動ができるようになり、我々支援隊も行動パターンを熟知し当初の頃とは見違えるようになって来たと感じたものでした。

最後に今回の大会で健闘された選手の皆様方やコーチの方々、そして署員の方々各位に心から感謝申し上げます。

編集後記

第三分団　杉山　寛人

早いものでもう師走。光陰矢の如しと言いますが、歳を重ねると尚更スピードアップしているやに感じるのは私だけでしょうか。

今年は十一月半ば過ぎまで二十五度超えの日々が続き、その後いきなり寒の入り、日本特有の四季は何処へいってしまったのでしょうか。春、秋はいずこに、これでは「二季」ですね。

今年もあと残り少し、皆様方健康にご留意され素晴らしい新春をお迎えくださる様お祈り致しております。

ダンプレス　編集委員

☆委　員　長　杉山　年昭
☆副委員長　西井　敏彦
☆委　員
団　本　部　河野　美佐子
第一分団　重岡　卓　・白川　貴康
第二分団　渡邊　雄太・黒田　陣弥
第三分団　杉山　寛人・沼　邦彦
第四分団　齋藤　充広・金元　祐紹
編集構成　竹村　佳昭